

日露青年交流事業

# 参加者の声

(2014年版)



日露青年交流センター

Японо-Российский центр  
молодёжных обменов

## (はじめに)

日露青年交流センターでは、1999年の事業開始以来、短期招聘・派遣事業等を通して日露の青年交流を図る様々なプログラムを実施してきました。2014年末の時点で、これまでに招聘、派遣した両国の青年の人数は約4,800人にのぼります。2014年は、2013年4月に行われた安倍総理とプーチン大統領の首脳会談での合意に基づき「日露武道交流年」と定められ、日露青年交流の枠組みにおいては数多くの武道交流が実施されました。本冊子では、2014年に実施した主要な招聘、派遣プログラムの概要及び同プログラムに参加した人の感想を紹介しています。日露青年交流事業に関心のある方には是非ご一読願いたく、この度本冊子を作成しました。



日本語履修高校生プログラム・京都北稜高校にて(2013年11月)

## (日露青年交流センター設立の経緯)

1998年11月、日露首脳会談(小渕総理、エリツィン大統領)において、両国首脳は日露間の国民レベルの人的交流を抜本的に拡充することで合意し、1999年5月、両国の政府間協定に基づき国際機関として設置された日露青年交流委員会の事務局として日露青年交流センターが設立されました。

2008年4月、両国首脳(福田総理、プーチン大統領)は、日露青年交流の規模を一層拡大して、日露合わせて毎年500名規模の交流を実施することで合意しました。

2012年にこの目標が達成されたことを踏まえ、2013年4月の日露首脳会談で両国首脳(安倍総理、プーチン大統領)は、青年交流が日露関係の着実な発展のために特別な意味を持つことを確認し、両国間の青年交流をさらに拡大することを支持しました。

日露青年交流センターは日露青年交流委員会の決定に基づき、(1)短期招聘・派遣事業、(2)日本語教師派遣事業、(3)若手研究者等に対するフェローシップ供与事業の3つを主な事業として、1999年7月の事業開始以来、これまでに約4,800人に及ぶ日露の青年交流を実施しています。

## 目 次

### (派遣プログラム)

モスクワ大学への日本人学生 100 名派遣プログラム(2014 年 3 月 16 日～22 日) .....	1
北海道・サハリン剣道団体交流グループ派遣プログラム(2014 年 8 月 2 日～8 月 6 日).....	3
日・サンクトペテルブルク合気道交流グループ派遣プログラム(2014 年 8 月 9 日～16 日).....	4
JC(日本青年会議所)学生ミッション派遣プログラム(2014 年 9 月 7 日～14 日) .....	6
イルクーツク合気道交流グループ派遣プログラム(2014 年 12 月 2 日～12 月 8 日) .....	7

### (招聘プログラム)

モスクワ大学合気道交流グループ招聘プログラム(2014 年 6 月 30 日～7 月 9 日) .....	8
チェス・将棋二種競技相互交流グループ招聘プログラム(2014 年 8 月 2 日～11 日).....	9
日・サハリン・モーターサイクルスポーツ交流グループ招聘プログラム(2014 年 8 月 14 日～8 月 20 日).....	10
オケアン感謝の会招聘プログラム(2014 年 10 月 9 日～16 日) .....	11
囲碁交流招聘プログラム(2014 年 10 月 23 日～31 日).....	13
日本語履修高校生グループ招聘プログラム(2014 年 11 月 1 日～11 月 9 日).....	14
極東地域剣道家交流グループ招聘プログラム(2014 年 11 月 2 日～11 月 9 日) .....	15
日本語履修大学生グループ招聘プログラム(2014 年 11 月 15 日～11 月 23 日).....	16
ウリヤノフスク弓道交流グループ招聘プログラム(2014 年 11 月 17 日～11 月 24 日) .....	18
沖縄空手・古武道グループ招聘プログラム(2014 年 12 月 11 日～12 月 18 日) .....	19

## (派遣プログラム)

モスクワ大学への日本人学生 100 名派遣プログラム(2014 年 3 月 16 日～22 日)

派遣人数:100 名

### (プログラムの概要)

このプログラムは、2013 年 4 月に安倍首相がモスクワを訪問した際、モスクワ大学サドヴニチイ学長から日本人学生 100 名の受け入れについて提案があったことに端を発し、実施に至りました。日本全国から学生を募集し、結果、国公立 32 大学の学生がモスクワ大学を訪問しました。一行は、ロシアの文化・芸術に触れ、モスクワ大学内を視察し、武道クラブを訪問したほか、現地で日本語を勉強する人たちと交流する機会も持つことができました。



### (参加者の声)

今回の経験は、このままで終わらせるのではなく、ぜひロシアと日本がこれからもっと仲良くなるために自分が何ができるのかを考えるきっかけにしていきたいです。ロシアを専門にしている人がロシアについて深く学ぶのは当然のことですが、自分のような違う分野の人間もロシアと一定の関係性を持つことで、日口の学生交流のいわずそ野を広げることが、自分ならではの役目ではないかと思っております。(東京大学 阿部祥拓)

このプログラムに派遣されるまで、私にとってロシアという国は政治的・外交的イメージが根深く、旅行先の候補に挙がったこともないくらいの国だった。しかし、1週間のモスクワ滞在で多くの現地の人と出会い、交流を深める中で、ロシアのありのままの姿を見ることができ、こんなに素晴らしい国だったのだ、と驚かされた。特に印象に残ったことを2つ挙げる。1つは、とても親日的な国であるということだ。モスクワ大学にはアジア・アフリカ諸国大学という部局があり、その日本語専攻の学生はとにかく日本語が上手い。日本語が専攻でなくても、自ら日本語を学ぼうとしている学生にも、今回のプログラムを通して多くの人に会った。彼らの多くはアニメがきっかけで日本に興味を持ったと話してくれた。また、街には日本食レストランがあふれかえり、日本食が本当に好まれているのを肌で感じた。アニメや日本食は日本という国を身近に感じてもらい、興味を持ってくれるきっかけになっているのだと強く思う。もう1つは、おもてなしの心だ。このプログラムには現地学生のボランティアがサポートして下さり、英語があまり通じない街中でも、おかげで何不自由なく過ごすことができた。

(大阪大学 梅田奈未子)

日本国内において、ロシアという国に対し、具体性を欠いた不安を抱いている方々が少なからずいると思います。そういった不安はこのようなプログラムを通し、直接交流することで一気に拭かれるものと思います。しかし、すべての両国民が交流を行うというのは非現実的な話であり、その理想に少しでも近づけるためには、私たち今回の参加者が、その経験をなるべく具体的に、主観的に伝えることが有効ではないでしょうか。本で学んだわけでも、テレビで観たわけでもなく、自分の目で、肌で感じたからこそ伝えられることがあるはずです。私たちの課題として、そこに重点を置き、国際交流の余波を広げていくことに、今後も力を尽くしていきたいと思えます。

(東京大学 古川渉太)

1週間、1日が2日に思ってしまうほどの充実した毎日を過ごして、モスクワに滞在できたのは素晴らしいことでした。ロシア語が通じない日本人がたくさん来て迷惑だったと思いますが、お菓子をもっと食べて、とってくださった(勘でそう言っていると分かりました)、寮母さんからも優しさを感じました。

また、100人の日本人を受け入れてくださった学長、副学長の懐の広さに感心しました。閉会式でのあなたたちはもう半分ロシア人です、という言葉は大変嬉しかったです。(神戸大学 吉田奈央)



モスクワ大学をバックに

## 北海道・サハリン剣道団体交流グループ派遣プログラム(2014年8月2日～8月6日)

派遣人数:5名

### (プログラムの概要)

札幌市剣道連盟茨戸剣道会メンバーをサハリンに派遣しました。剣道会同士は数年前から交流があります。サハリンでは合同稽古を通じ交流を深め、剣道会同士の友好関係はさらに強まりました。



### (参加者の声)

今回の剣道・居合道交流に関して感じたことは、武道には国境がないということです。

言葉が通じなくとも、手振りですら十分です。5日間の短い期間でしたが、一緒に汗を流して稽古をすると、気持ちと一緒に、国が違うことを忘れて融和団結できました。また、サハリンは戦前、日本人が沢山住んでいました。その関係で日本人を大切にしてくれます。日本文化の建物が沢山残っています。そのサハリンで日本文化の武道(剣道・居合道)を通じて交流できたことは、私の誇りです。学生達にも一生の思い出となったことでしょう。日露の平和と友好を願い、学生達が大人になった時にサハリンで剣道・居合道を行い、友情を深め、ロシアの文化に触れた事を、また、お世話になったことを誇りに話をするでしょう。(引率者 井上廣巳)

行く前はとても不安でずっと緊張していました。しかし、サハリンの方々がとても温かく迎えて下さって、安心して5日間過ごせました。ロシアではまだまだ武道が発達していないと思いますが、今回の交流をきっかけに武道の面白さを伝えられれば嬉しいですし、私たち日本人は日本の武道家として礼儀・行動・気遣い等、他の国の方々のお手本となるように気をつけなければと、改めて感じました。剣道以外でもロシアの文化・歴史を、その場で学べてとても良い経験でした。このように他の国の方々と沢山交流し、もっともっと日本の武道の面白さや、良さを沢山の皆さんに感じてもらいたいです。(高校3年、奥村美弥)

ロシアには元気に遊ぶ子供と、その子供達と同じように楽しく遊ぶ大人たちがいる。それはとても良いなと思った。そのようなことは日本ではないことなので、素敵だなと思ったし、自分はすごく好きだなと思った。そして、帰る時は、女の子が、教わった慣れない日本語で「またサハリンに来てください」と言ってくれた。今度また会う機会があったら、自分がロシア語で話してあげたいなと思った。

(高校1年、杉山千瑳)



ロシア人ホストファミリー宅にて

## 日・ Санктペテルブルク合気道交流グループ派遣プログラム(2014年8月9日～16日)

派遣人数:19名

### (プログラムの概要)

合気道堀越道場のグループが、 Санктペテルブルクを訪問しました。道場と現地の受け入れ団体とはすでに数年前から交流がありました。みんなで合気道に汗を流し、野外活動や青年交流を大いに楽しみました。今回初めて飛行機に乗った、初めて海外に行った、最初は不安だったが、現地の方々のおかげでとても楽しめたという声が多く寄せられました。



### (参加者の声)

合気道の稽古を通して様々なことが伝わってきた。私の拙い会話力にもかかわらずロシアの方の細やかな気配り、優しさ、何よりも合気道に対する情熱を感じることができた。合気道の発祥地、日本よりもずっと合気道への探究心が強いのではないだろうか。私も彼らに負けないように日々成長していきたい。また、市内視察や食事では、ロシアの歴史、文化、伝統に触れることができた。場所によってはスリなどが多くいる危険な場所もあったようだ。私達が楽しく興味深く回れたのはロシアの道場の方々が無言で目を光らせて守ってくださったおかげであると痛感している。  
(山脇馨)

今回のプログラムでは、合気道の稽古を通じてとても多くのロシアの方々と交流することができ、報道や本などの情報では得られない経験ができました。また日本の武道である合気道をロシアの方々がとても真剣に稽古されている姿に感激しました。これからも、合気道が結び付けてくれたロシアの方々ととの絆を大切にしていきたいと思えます。最後に、今回は貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。(保谷朋子)

参加するにあたり、最初は渡航の面についても不安がありました。ロシアの方々非常に温かく迎えて下さり、また素晴らしいご配慮もあり、ロシアでの生活は何も不自由することなく、とても充実した時間を過ごさせていただきました。一緒に稽古をすることで、技の技術について学ぶことができましたが、人種や言葉の壁を越えて、優しさや心の温かさ等に触れることもできました。これは、ただの旅行ではなく合気道という共通のスポーツがあったからこそ、より深く感じられたのだと思います。すべてが日本にはできない経験だったため参加させていただき本当に良かったと思いました。今後も日ロ交流のために、ロシアの知識や理解を深めたり、自分のできることから貢献をしていきたいと思っています。このような交流の場を設けていただきありがとうございました。

(並木友里)

今回のプログラムでは全体的にロシアの方々の日本人に対するおもてなしがとてもよかった。常にこちらのことを考えて下さり、かつこちらが楽しくなるように気さくに話しかけてくれるなど気遣いがとても嬉しかった。稽古では言葉が通じないながらも互いに相手のことを理解しようとボディランゲージを使うなどいつもの稽古と違い新鮮に感じた。また演武を見た際、自分達が普段行う演武よりもより実践的で参考になることが多かったと思う。文化や考えが多々違う中、たくさんのことを学べたこのプログラムは貴重な経験になった。(中妻和貴)

普段、学校での稽古ではなかなか出来ない技や、流派の違いから全く見たことのない技まで幅広く練習を重ねることができたので、自分の中での“合気道”の枠組みがかなり広がったように思う。大学では自らが所属する部活動の属する流派の技だけをやるのに対し、ロシアでは堀越道場のやり方もあればロシア人の方たち独自のやり方もあり、違ったやり方で合気道を楽しむことができた。ロシアの方はほとんどの方が体格がすごく良いので、自分より遥かに大きい人に対してどう技をかけるか等、新たなことを考えるきっかけにもなった。こういったことを通じて学んだのは、合気道、ひいては武道の捉え方というのは国によって様々であるということだ。もっと言えば個人個人でも違うと言えるだろう。生まれた国が違うだけでこんなにも合気道に向かう姿勢が違うものかと、驚きを隠せなかった。同じ武道をやっているのにここまで違うのかと思うと同時に、様々な思想や志の下にある人たちを丸ごと受け入れる合気道という武道の懐の深さも強く感じた。(目黒仁)



## JC(日本青年会議所)学生ミッション派遣プログラム(2014年9月7日~14日)

派遣人数:15名

### (プログラムの概要)

このプログラムは、JCとの協力で継続的に行われているもので、毎年日本人大学生をモスクワとペテルブルクに派遣しています。現地では学生達との交流の他、ホームステイでロシア人家庭に滞在しロシア文化にも触れる機会となりました。



### (参加者の声)

ロシア人は友人に対してものすごく愛情・友情を持って接してくれました。ロシア人の愛情や友情というものは私たち日本人の想像を超えたものでした。さらに、同世代のロシアの友人が数多くできたことは私個人としても大きな財産になりました。戦後の日露関係というのは、浮き沈みはありつつもどちらかというあまりうまくいっていませんでした。北方領土の帰属問題についても未だに課題が山積みの状況です。それには様々な要因があるとは思いますが、しかし、一番の要因には日露双方が相手の国について知らなすぎることにあるのではないかと思います。特にロシア側というよりもむしろ日本側にそれは顕著のように思います(もちろんロシア側にも問題はあります)。今回、実際にロシアを訪れてみて、ロシアにはまだソ連時代の部分を引きずっているところもあると思いました。しかし、それと同時に昔と変わっている部分も多くあります。日本では現在でもロシアに対して「怖い」といったソ連時代のイメージを引きずり、そのイメージのもとでロシアについて語ろうとする風潮がありますが、そろそろ終止符を打つべきだと思います。そのためには、実際にロシアを訪れた私たちのような人間が、少しずついいのでロシアの実態について周囲に伝えていく必要があると思います。(北海道大学 鈴木智大)

ロシアの生徒は、先生が教室に入った瞬間、立ち上がり、先生に敬意を表しました。私は、このような素晴らしい文化があることに驚き、そして礼儀を重んじる性格は、日本人と似ていると感じました。また、ホストファミリーは、英語も通じないにもかかわらず、初めて会う私に、私の想像を超える素晴らしいおもてなしをしてくださいました。最後別れる際に、ホストマザーが私の手を握って微笑んでくださったときに、言葉を介さなくとも、心と心の会話ができたと確信しました。このように、ロシア人の優しさには、心を動かされてばかりでした。(横浜国立大学 日高綾乃)



## イルクーツク合気道交流グループ派遣プログラム(2014年12月2日～12月8日)

派遣人数:10名

### (プログラムの概要)

合気道の代表団をイルクーツクに派遣しました。厳しい寒さで知られるロシア、出発当日に搭乗便が吹雪で欠航になるというアクシデントもありましたが、それにもめげず現地での合同稽古を通じた青年交流に励んできました。現地では、日本語を勉強している大学生に町を案内してもらおう等、温かいおもてなしを受けました。



### (参加者の声)

私が小さいころから合気道をやっていてこれからも続けていきたいという話をしたら、ずっと一つのことを好きだと思ってやっているのがかっこいいと思うと言われました。「かっこいい」という表現が外国の人らしいなと思いました。私はロシアの学生が色々なことに挑戦して多様な趣味を持っていることが「かっこいい」と感じました

(国際武道大学 阿部優美)

ロシアでは雪が積もっていないところはなかったです。ロシアにいと、雪でニュースにもなる日本が少し大ききようにも見えてきます。今回の交流会は、私にとってとても貴重な経験となりました。稽古だけではなく私の世界観も変わった気がします。

(国際武道大学 井上祐士郎)

ロシア人の学生は勤勉で、将来の事もしっかり見据え、「日本で通訳の仕事をする」など将来展望が確立していました。合気道についてもお話しし、試合がないのになぜ稽古をするのかとの質問に合気道の本質を考えさせられました。私自身、なぜ合気道を稽古しているのだろうと初心に帰りました。合気道を口頭で説明することは難しかったですが、私の話が少しでも彼らに影響を与えられたのなら嬉しいです。(国際武道大学 前川原基)

## (招聘プログラム)

モスクワ大学合気道交流グループ招聘プログラム(2014年6月30日～7月9日)

招聘人数:17名

### (プログラムの概要)

3月に「モスクワ大学100名派遣」プログラムで「モスクワ大学武道クラブ」を訪問したことが本プログラム実施のきっかけとなりました。2014年は日露武道交流年でもあり、その一環として同クラブメンバーを日本に招聘することになりました。プログラムでは、都内の大学合気道部との合同練習、交流会のほか「モスクワ大学100名派遣」プログラムに参加した学生との都内散策、博物館見学、歌舞伎鑑賞、鎌倉・箱根視察を実施しました。



### (参加者の声)

私は、最高の水準の先生方から大変貴重な武道の教えを学び、そのほかにも日本文化の基礎を知ることが出来ました。

日本とロシアの両国間の青年交流が今後も続いていくことを期待しています。我々側としても、できる限りのお手伝いをしたいと思います。近い将来、モスクワで日本人学生の皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

(モスクワ大学 ポリーナ・セルゲエヴァ)

今回の訪日は、飛び抜けて素晴らしかったです。今回の日本滞在は、日本の秘密のヴェールを少し剥いでくれて、普通の観光旅行ではできなかったことを経験することが出来ました。明治神宮の杜を歩いているだけで精神的に豊かになり、風変わりな形の木々、堂々としたカラスの姿を眺めていると、神聖な場所の雰囲気を感じることが出来ました。至誠館の先生方との錬成は、自分の内面世界を覆すほどのものでした。私の感謝の気持ちは、とどまるところを知りません。今回の事業を計画していただいた全ての皆さん、全ての出来事、偶然の出来事、目にしたもの、目にしなかったもの全てに感謝致します。(モスクワ音楽院 リリアナ・サフィハノヴァ)



## チェス・将棋二種競技相互交流グループ招聘プログラム(2014年8月2日～11日)

招聘人数:11名

### (プログラムの概要)

ロシアが強さを誇るチェスと、日本のお家芸である将棋の二種目の対局を東京と京都で行い、ロシア人学生チームと日本人学生チームが交流しました。頭脳ボードゲームの上級者同士が互いに力を認めあい、さらに個人間の親密な交流をもたらす素晴らしいプログラムとなりました。



### (参加者の声)

このプログラムのおかげで、日本の文化や伝統について新しいことをたくさん知ることができ、たくさんの面白い人たちと知り合うことができました。日本人学生の皆さんも私たちとの交流を通じて、ロシアについてたくさんの新しいことを知っていただけたら、嬉しいです。すべてが理想的だったと思います。

(モスクワ大学 アンザマ・シヤラポヴァ)

プログラム全体に渡り素晴らしい印象を受けました。本当にスポーツと文化の祭典でした。感謝しております。

(モスクワ大学 ミハイル・トクマチョフ)

日本という国がとても気に入りました。プログラムの中で特に気に入ったのは、香川愛生女流王将との多面指しです。日本の学生にもロシアに来て欲しいです。

(モスクワ大学 マルス・ダヴレトシン)



日・サハリン・モーターサイクルスポーツ交流グループ招聘プログラム(2014年8月14日～8月20日)

招聘人数:9名

(プログラムの概要)

北海道とサハリンのオフロードバイクの愛好者たちが北海道の大自然を舞台にモトクロスレースで交流しました。日本人選手およびスタッフがレースの合間にロシアチームのバイクの整備を懸命にサポートし、またレース後はお互いに健闘を讃えあうなど、ロシア人チームを迎え入れた北海道の方々の温かい歓迎の気持ちが伝わる素晴らしいプログラムとなりました



レースを終えた後で



## オケアン感謝の会招聘プログラム(2014年10月9日～16日)

招聘人数:15名

### (プログラムの概要)

2011年に、「東日本大震災被災地高校生グループ派遣プログラム」を実施し、岩手県及び宮城県の中高生をウラジオストクに派遣しました。(「オケアン」とは、その時に中高生の受け入れ先となった「全ロシア子供センター」の通称です。)本プログラムは、その答礼プログラムとして実施し、3年前に出会った中高生がオケアンのチューターと日本で再会し、ロシアの高校生と新たな友情を育むとともに、被災地の現在の様子を知ってもらい、また日本文化にも触れてもらえる機会となりました。



↑3年ぶりの再会を喜び合う参加者たち  
3年前の写真と同じポーズで→



### (参加者の声)

感謝の会は、楽しく、大変感動的で、友好的だった。津波で海に沈んだ地域を視察したことによって、恐ろしい出来事を体験した住民の悲劇は確実に記憶に残るだろう。近い将来、街を復興しようという彼らの目的意識に感嘆した。非常に大きな困難が控えていることと思うが、すべてが計画通りにいきますように。

(引率者 エテリ・マルゾエヴァ)

生徒たちと再会する機会をくださり本当にありがとうございます。また今後も相互交流が続けばいいなと思います。もしもう一度生徒たちといっしょに過ごせる機会があれば、これ以上幸せなことはありません。

(クラスノヤルスク州 アントン・アヴドゥエフスキー)

この一週間の滞在中、日本について多くのことを知ることができました。日本人は非常に自己抑制的で真面目だといつも思っていたのですが、実際に日本人と会ううちに、私たちとそれほど変わらないことがわかりました。

とても日本が好きになりましたし、この奇跡の国、日出づる国にまた来たいと思います。本当にすべてが素晴らしかったです。温かく迎えてくれたこの素敵な国を去るのは大変残念です。

(ウラジオストク エヴゲーニー・アシフミン)

このようなプログラムに参加し、日本という素晴らしい国に来るチャンスをくださったことに感謝します。そして、将来今度はぼくの息子がこのようなプログラムに参加する日が来ればいいなと思います。

(ウラジオストク ダニール・コピトフ)

私にとって日本は未知の世界で、ずっとその文化を詳しく知りたと思っていましたが、このプログラムのおかげで願いが叶いました。このような機会をいただけて、とても嬉しいです。とても勉強になりましたし、とにかくとても面白かったです。今後も生徒間の交流が続き、お互い隣国の文化を教え合えたらいいなと思います。

(ウラジオストク ラーダ・プロツェンコ)



## 囲碁交流招聘プログラム(2014年10月23日～31日)

招聘人数:26名

### (プログラムの概要)

ロシアのモスクワとウラジオストクそれぞれの囲碁連盟に所属する囲碁棋士を招聘しました。東京、京都の大学生囲碁棋士と対局したほか、囲碁の総本山である日本棋院でセミナーを受講しました。参加者の中には移動の時間にも囲碁を打ったり、囲碁の本で勉強する姿が見られ、囲碁に明け暮れた滞在期間となりました。



### (参加者の声)

ロシアに戻ったら、この素晴らしい国についてもっと本で読んでみたいと思います。比較的短い期間でしたが、とても多くのことをすることができました。歴史的な名所や日本棋院を訪れ、楽しい人々に会い、そしてもちろん、囲碁を打つこともできました。日露両国の協力関係が様々なレベルで継続し、そして日露青年交流も継続していくことを願っています。  
(ウラジオストク ドミトリー・モチツキー)

日本に行く機会を与えて下さってありがとうございました。すべてがとても気に入りました。日本人はホスピタリティがあり、親切です。囲碁棋士の皆さんが忍耐強く、落ち着いているのも印象に残りました。対局は楽しかったです。豊かな歴史のある、面白い国、日本にまた来たいと思います。(ウラジオストク ポリーナ・ポノマルチュク)

日本滞在はとても面白かったです。毎日が印象的でした。生きた日本人囲碁棋士(インターネットを介してではなく)と対局できる機会をくださりありがとうございました。(ブラゴヴェシエンスク スヴェトラナ・シェルドキナ)

このプログラム実現に関わったすべての方に感謝します。このプログラムを通して、日本の習慣や文化について知ることができました。日本人囲碁棋士と対局をして、さらに強くなったと思います。この数日で、本当に日本が大好きになり、また来たいと思っています。こうしたプログラムは、日露両国のステレオタイプを破り、友好の助けとなると思います。

(クラスノヤルスク キリル・デニソフ)



## 日本語履修高校生グループ招聘プログラム(2014年11月1日～11月9日)

招聘人数:51名

### (プログラムの概要)

ロシアで日本語を学ぶ高校生を招聘しました。日本人高校生と交流し、連絡先を交換して友好を深めるきっかけとなっただけでなく、ロシア全土から高校生が参加したことで、生徒同士が仲良くなり、日本語を勉強する生徒間のネットワークができました。本プログラムに参加したことで、将来は日本と関わる仕事に就きたいと思ったという声が多く寄せられました。



### (参加者の声)

この一週間のことは、数巻に及ぶ長い物語に書けると思います。私は初めて日本に来ました。皆さんは、親切に私たちを出迎えて下さり、誠心誠意お世話をしてくださり、日本文化にも感銘を受けました。この7日間で新しいことを知りました。一番良かったのは、日本人高校生との散策です。彼らとは、日本語や英語で会話することができ、彼らの学校や国について、面白いことを沢山知ることができました。こんなにも素晴らしく、面白く、充実したプログラムを主催していただいた皆様に感謝しています。私の生涯の夢を叶えてくれました。どうもありがとうございました。

(ハバロフスク エカテリーナ・エメツ)

このプログラムのおかげで自分の日本語と日本文化の知識を確認することができ、日本人高校生と交流することで彼らの生活を少し知ることができました。このプログラムは忘れられないものになりました。面白い場所の見学やガイドの皆さんの興味深い説明は、日本文化を様々な面から見せてくれ、また日本人高校生との交流は今後の交流のきっかけになりましたし、日本とロシアは国としては大きく違いますが、私たちはとてもよく似ているということが分かりました。そして、このプログラムはロシア全土から参加した日本語と日本文化を学ぶ高校生を結びつけてくれました。皆日本人高校生との交流の際には助け合い、日本の伝統や日本文化の知識を分け合いました。

(サンクトペテルブルク アンナ・ママジャニャン)

今回の旅行では、同世代の人だけでなく、たくさんのネイティブスピーカーの方たちと交流しました。この旅のおかげで、私は将来の職業と人生を、日本文化と日本語の勉強に捧げたいと思います。

(ウラジオストク ポリーナ・オニキエンコ)

私は、このようなプログラムは、高校生にとってとても必要だと思います。それは、視野を広げてくれ、外国人との交流の経験を与えてくれ、職業の選択に役立つからです。

(ウラジオストク エレーナ・ポルヴァトキナ)

## 極東地域剣道家交流グループ招聘プログラム(2014年11月2日～11月9日)

招聘人数:14名

### (プログラムの概要)

ロシア極東地域から剣道家を招聘しました。日本人剣士との合同稽古により青年交流を行い、今後の交流への足がかりを作りました。稽古の他、剣道講習会や防具保守講習会においては日本の礼儀作法や物を大切にする心に触れ、スポーツとは一線を画す武道としての剣道への理解を深めました。また、日光を訪れ日本の伝統地場産業である木綿の藍染および益子焼が危機を乗り越えながらも復興していく様子を見て、日本人の伝統継承に対する意欲に触れました。



### (参加者の声)

温かいおもてなしをありがとうございます。日本で剣道を学び、別の角度から日本文化に触れ、本で読んだり、テレビで見たりするだけでは知りえないことに触れる機会を与えて下さったことに対し、日本側の皆様には大変感謝しております。剣道、手ぬぐい染めの絞りの技術、茶道、日光視察、全日本剣道選手権大会観戦は未来に向けての力強いエネルギーとなりました。日本の道場、大学、そして高校で剣道ができ、日本の剣士たちと知り合いになれてとても嬉しかったです。この交流が続いていくことを希望します。(ウラジオストク アガタ・イオニナ)

全体的に全て素晴らしく、たくさんの友達ことができました。たくさん笑いました。日本の文化について新しいことをたくさん知りました。(ナデジュジンスキー アレクセイ・キリュシキン)

両国の協力関係が年を追うごとにますます強化されることを願っています。あたたかいおもてなしをありがとうございました。みなさんのおかげで東京が大好きになりました。

(ウラジオストク アレクサンドラ・ヴェルズノヴァ)



## 日本語履修大学生グループ招聘プログラム(2014年11月15日～11月23日)

招聘人数:50名

### (プログラムの概要)

当センターより日本語教師を派遣している大学の他、ロシア各地にある日本大使館、総領事館の推薦により、日本語教育を行っている大学から学生を選抜し、招聘しました。

今年は立命館大学の協力を得て、京都市内の衣笠キャンパスを訪問し、同大学の学生との交流や日本語授業への参加、ポップカルチャーについての講義の聴講、サークル活動体験(書道、邦楽、能楽)を行いました。

学生との交流プログラムでは、京都市内を一緒に散策し、京都の史跡、文化を堪能しました。

また、東京では、日本人大学生との都内散策、日本語専門書店や江戸東京博物館の訪問、銀座・浅草・お台場視察等を行いました。



(参加者の声)

プログラムのすべてが本当によかったので、その印象について語ると1日では足りないくらいです。

(モスクワ市立教育大学 アンナ・クレヴァンスカヤ)

このような機会を与えて下さり本当にありがとうございました。1週間で、多くの面白い場所を見学し、日本文化を学び、新しい友達を作ることができました。もしまた日本に行く機会があったら、喜んで行きます。ありがとうございました。

(サンクトペテルブルク 東洋大学 タチヤナ・スムキナ)

素晴らしい国、日本を訪問することのできるこのような特別な機会を与えて下さり感謝します。7日間はあるという間で、何があったか思い出せないほどです。プログラムはとても充実していたので、退屈することはまったくありませんでした。よい思い出ばかりが残っています。私はまた日本に来ることを確信しています。

(ハバロフスク国立経済法律アカデミー ヴィクトリヤ・イサエヴァ)

素晴らしいプログラムでした。これからは、日本のロシアに対するイメージを上げたいと思います。

(モスクワ市立教育大学 アリョーナ・アントノヴァ)

このプログラムが私の人生を変えたことは間違いありません。私は、日本にまた来て、住んで、働くためにあらゆる努力をします。太陽は、まず日本を照らし、それから他の国を照らしています。日本には未来があります。だからこそ、私は日本語を勉強し始めたのです。そのことを少しも後悔していません。どうもありがとうございました。

(サハリン経済法律情報大学 パーヴェル・レオンチエフ)

忘れられない1週間になりました。これほどの短い期間で、たくさんを知り、見て、経験することができました。この期間ですべてを知ることは当然不可能で、まだまだ見るべき素晴らしい場所や知るべき謎もあります。しかし、この1週間で、私は文化について、日本について、全体的なイメージをつかむことができたと思います。私の日本に対する興味は一層強くなり、これは素晴らしいことだと思います。

(ヤクーツク 北東連邦大学 アンナ・レベデヴァ)



## ウリヤノフスク弓道交流グループ招聘プログラム(2014年11月17日～11月24日)

招聘人数:9名

### (プログラムの概要)

このプログラムは、武道交流年事業の中で唯一の弓道プログラムとなりました。ロシアのウリヤノフスク武道アカデミーでは、弓道と合気道を実践しており、両方の練習を入れつつ、日本文化への理解を促すため、茶道と書道の体験、またガラス工芸の体験も実施しました。弓道の練習では弓道会の皆さんのほか、高校弓道部の皆さんとの合同練習が実現でき、合気道については、子供から大人までの幅広い層の皆さんと一緒に稽古をすることができました。



### (参加者の声)

日本に行くことをいつも夢見ていました。この一週間は忘れられないものになりました。弓道や合気道の練習以外にも、茶道や書道などの日本文化を知ることができたことも大変素晴らしいことです。

また必ず日本を訪れて、私がこれまで会った誰よりも親切で、おもてなしの気持ちにあふれた人たちに会いたいと思います。次回訪問する時には、通訳の助けを借りずに交流できるように、日本語を勉強したいと思います。どうもありがとうございました。

(ウリヤノフスク ディアナ・ポドソヒナ)

両国間の関係が発展していることは、たいへん嬉しいことです。私は、今後あらゆる機会や方法を利用して、両国間の関係を助け、その強化のためになる交流に参加したいと思います。ボランティアでの交流などできる限りの協力を惜しまないつもりです。どうもありがとうございました。

(ウリヤノフスク ポラド・サリフザデ)



## 沖縄空手・古武道グループ招聘プログラム(2014年12月11日～12月18日)

招聘人数:9名

### (プログラムの概要)

モスクワ武道連盟のメンバーを沖縄に招聘しました。空手の道場のみならず、空手の要素が取り入れられている琉球舞踊を日本人と共に踊ることや、空手博物館で沖縄空手の歴史に関するセミナーに参加することで空手に関する理解を深めたほか、ロシアの伝統武術であるステンカやコンバットサンボのセミナーをロシア側が日本人格闘家に対して行い、相互交流が実現しました。



### (参加者の声)

2014年の日露武道交流年の精神と目的に相応しい、とてもよいプログラムでした。

(モスクワ ヴァレーリー・マイストロヴォイ)

とても内容の詰まった素晴らしいプログラムでした。毎日新しい場所に行き、印象深いことがありました。あのようにレベルの高い先生方に稽古をつけていただいた上に、近くお話をする機会を設けていただき、とても嬉しかったです。沖縄文化がとても豊かで多様なことに驚きました。美しい自然、地元の料理、そしてとても親切な人々が印象に残りました。必ずもう一度沖縄に来ます！

(モスクワ アルチョーム・ガルマシェフ)



